



一隅を照らす運動総本部だより
No. 47



一隅を照らす運動ホームページアドレス
<http://ichigu.net>

タイ・スタディーツアーを実施

一隅を照らす運動総本部では、平成二十九年十一月九日～十四日の日程で、比叻山高等学校と駒込高等学校の生徒八名を引率し、タイ王国（ドゥアン・プラティーブ財団）を訪問するスタディーツアーを実施した。

このスタディーツアーは昨年度に引き続き二回目の開催となる。一隅を照らす運動が取り組む地球救済事業の活動への理解を深めるきっかけとしても、貧困地域の現状に触れ、普段の学習では得ることのできない経験を積んでもらう事を目的に実施した。今回は、より充実したツアーとなるように滞在時間を増やし、現地交流の拡充を図られている。

十日には、ドゥアン・プラティーブ財団「生き直しの学校」（チュンポーン校）を訪問し、施設の子どもたちから歓迎を受けた。この施設には三日間滞在し、日本の高校生とタイの子どもたちが共同作業やスポーツを通して、タイ語の指差し会話本やジェスチャー



「生き直しの学校」チュンポーン校での開講式（11月10日）

を用いるなど積極的に交流を行った。最初は言葉の壁もあり緊張気味であったが、次第に打ち解けていく様子が窺えた。他にも、将来の夢や普段の生活について通訳を交えて意見交換するなど、その違いや共通点などに触れる機会となった。また、現地の小中学校を訪問し、校内や授業の様子を見学するなど多くの事を学ぶ貴重な機会となった。

十三日には、ドゥアン・プラティーブ財団の事務所（バンコク）を訪問した。事務所では、創設者のプラティーブ・ウンソントム・秦氏や財団のスタッフからクロントイスラム地区が抱える問題などの説明を受けた後、実際にクロントイ地区を視察し、日本との違いに直接触れる機会となった。

今回のスタディーツアーは、昨年度のプログラムをより充実させた企画となっており、参加高校生たちにとって普通の旅行では経験できない内容となったようである。一隅を照らす運動総本部では、来年度以降もこのツアーの実施を検討しており、今回の改善点などを十分に精査し、より充実した内容のスタディーツアーとなるよう努めたい。

《参加生徒の感想》

「タイ」

比叻山高校 二年 楠井貞仁
生き直しの学校を訪れて、スタッフや子どもたちが笑顔でみんな明るいなと思いました。ただ、言葉が通じないということとは不安でした。しかし、向こうの子どもたちが一緒に遊ぼうと言

っているかのように自分の手を引いて連れて行ってくれたことはすごうれしかったです。そして、スポーツや作業と一緒にするうちに、なんとなく言いたいことがわかるようになり、心配していたことを忘れるぐらいまでになつていました。また、生活をともにするうちに、とても純粹で立派な子どもたちだと思いました。常に笑顔でいて、大人の言うことをよく聞き、お手伝いまでする、まさか、この子どもたちの背景に親がいなかったり、親と離れて暮らしているなんてことは考えられないぐらいでした。まだ小さいのもかかわらず、泣くこともなく、年上の人の話も聞き、一生懸命にがんばっている姿を見て、思わず涙が出そうになりました。そんな子どもたちには私に「何かほしいものはある？」と質問を試みました。すると、「日本行きのチケット」などと言う子もいましたが、多くの子どもたちは「何もいらない」と言いました。自分がこの子どもたちの立場なら百個ぐらい言っていたらどうに。そんな素直で良い子どもたちとお別れのときは、涙が出そうでした。泣いている子どもたちも居て、お別れしたくないなとも思っただし、あと最低

一カ月はここに居たいと思いました。もう一度会いに行こうと深く思いました。その後、その子どもたちの出身地であるスラム地域に行き、言葉で表せないよくわからない感じになりました。ただできるかぎり、より良い生活を提供したいと思いました。

この研修を終えて思ったことが、タイは実際には環境としては日本より貧しいかもしれませんが、その分、日本より心の豊かさがあるように感じられました。そして、タイは素晴らしい国だと心から感じました。このような経験をさせていただき本当にありがとうございました。

「タイ・スタディーツアー」

比叻山高校 二年 市川真衣

タイ・スタディーツアーに参加し、タイ人のあたたかさに触れながら共に活動をした四日間は、今までに感じたことのない喜びや発見、充実感を味わい、自分が大きく成長できたと感じた。今回のツアーへの参加を希望した最も大きな理由は、タイの子どもたちの心から楽しんでいそうな嘘のない、キラキラとした笑顔をみたいからであった。

スタディーツアーへの参加が決まり、嬉しさと楽しみでいっぱいだったが少し不安もあった。それは言葉による意思疎通である。今年の春休みに、私はニュージーランドへ海外研修に行った。ニュージーランドでの生活はとても楽しかったのだが、辛くもあった。特に最初の三日間は相手の言っていることが聞き取れない、分からない、言いたいことが言えないなど言葉の壁を感じた。しかし今回のツアーではその辛さを感じることは一度もなかった。言葉が分からなくても、心が通じ合っているような気がした。現地の子どもたちからタイ語を教わり、毎日少しずつ言葉覚えていくことで、会話の中で聞き取れる単語がだんだん増えていく喜びや、会話をする楽しさを感じることもできた。互いの母語を教え合うことで、より仲が深まったような気がした。「ともしびの館」では、子どもたちと一緒にとてもたくさんのことを行った。五時五十分からの朝の体操や掃除、農作業、スポーツ、お菓子作り、燈籠流しなど一つひとつの作業を些細な会話まで今でも鮮明に覚えている。どれも楽しく、これらの思い出を忘れることはないだろう。燈籠流しは子どもたち

との最初の作業だった。私たちは輪切りの木にろうそくを立て、お花や笹のような葉を折ったもので飾り付けをし、ふたりでひとつの燈籠を作った。彼らはとても繊細で器用な手つきだった。そして作り方の分からない私たちに、親切に教えてくれた。出会ったばかりで少し緊張していたのだが、とても気さくに話しかけてくれた。まるで何年も前から親しかつたかのような、そんな距離感で接してくれて一気に緊張がほぐれた。僅かな英語を使って日本のアニメの話に花を咲かせた。三日間彼らと会話をする中で驚いたことがあった。それは私が「今欲しいものはないか」と聞いたとき「今が幸せだから欲しいものはない」と返ってきたことである。私は彼らよりも不自由のない生活をしているのにもかかわらず新しいものを求めている。今の生活に満足している彼らの存在を知り、自分の欲深さに気付かされた。それと同時に心が満たされている彼らのことを羨ましく思った。

子どもたちと過ごした三日間はとても幸せだった。今までに見たことのないような美しい真っ直ぐな瞳で見つめられて、心が洗われた。辛い過去があ

るにもかかわらず、それを感じさせない彼らから多くのパワーをもらった。絶対に、すぐにでもタイに帰りたい。いつか日本にも遊びに来てほしいと思う。素敵な時間をありがとうございました。

「タイ・スタディーツアー二〇一七」

比叻山高校 二年 計良郁実

私はタイ・スタディーツアーに出発する前は親元で生活できない子たちには、私でも何かできることがあるのではないかと前向きな気持ちでいました。

実際にその子どもたちと農作業や燈籠作りなどをしているときにはその子どもたちは日本で自分が知っている子どもたちと全然変わりが無いと思っていました。日本のアニメのことを質問されたり農作業のやり方を教えてもらったりどこにでもいるような普通の子どもたちでした。

今まで子どもと接する機会があったので日本も外国もさほど変わりはないのだなと思いました。子どもたちと接するにも私は特別な感情を持って接していたわけではないので、一緒に過ごす時間はとても楽しいものでした。

タイで不便だなと思ったことは滞在

させてもらった施設でお湯が出なかったことには驚きましたが、すぐに慣れてしまいい、たいした不便ではないと思いました。将来青年海外協力隊に参加したいと思っているのですが、国にもよると思いますけれど、自分はやっていけるのではないかと思えました。けれど、そんな私の甘い考えは最後の意見交換会で打ち砕かれてしまいました。「お父さんとお母さんはいますか？」

そう聞かれたときに私は何といえいいのか分かりませんでした。最初からお父さんとお母さんと暮らせない子どもたちだと分かっていたのに、改めてそう聞かれると「両親がいること」は私にとって当たり前すぎて何と答えていいのか言葉に詰まりました。遠慮がちに「いる」と答えたのですが、その子どもたちが私の答えをどういうふうに受けとめたのか今でも分かりません。

頭で理解していることは実際行動にうつすとすると相手の感情と自分の感情と色々考えてしまつて何が正解なのか分からなくなりました。色々な知識を持つことも大事ですがまずは行動してみなければならぬと思います。これからの時間の中で一つのことにとだわらず国内のボランティア活動にも

目を向けて沢山の人と出会い色々な経験をしたいと強く思いました。

「愛するタイへ」

駒込高校 一年 植田晴帆
私がタイでやりたかったこと。このスタディーツアーでタイに行くことができるという話を聞いたとき一番最初に心に浮かんだこと。それはタイの方々に恩返しをしたいという気持ちだった。現地で実際に沢山の経験をして帰国した今だが私は恩返しという恩返しができただろうかと疑問に思っている。なぜなら自分が貢献できたことよりも享受したものが圧倒的に大きく、しかも輝いていたからだ。

一次審査の作文でタイの方々の優しい心が今の自分に影響していると書いた。改めてあの優しさに触れることができて私の心は感動でいっぱいである。心だけではない。脳みそから骨、筋肉。もう言葉で言い表せないほどの感情だ。灯籠を作っている時に葉っぱを切るためのハサミを探していた。みなハサミハサミ！と集まって探し、渡してくれた。私はただハサミを探しているだけだった。それにもかかわらずあんなに必死でただのハサミを探してくれたの

だ。もしかしたら小さな話に聞こえるかもしれない。しかし、私にとってあの出来事はかなり衝撃的であった。

また、私自身も驚いたことにタイにいる時は性格が変わっていた。あんなに心から笑って心から楽しんで生きていたのは何年ぶりだったのであろうか。バスケットボールをした。過去の人生であれほど楽しいバスケットボールはしたことがない。なぜだ。みんな笑っている。点を入れるだけがスポーツではないのか。国境を越えたのだ。スポーツって素晴らしい！感情が暴れていた。どうして今までこんなに素敵なのに気がつかなかったのか。タイが私を変えたのだ。お金や物が充分に無くて生きていくだけでこんなにも幸せでいられる。今まであれが欲しい、こうなったらどんなにいいだろうかと理想ばかり語っていた自分が情けなくなつた。

彼らは自分たちが辛い状況にいたことなんて私たちに一切思わせなかった。私たちが何も知らないだけで今も辛いかもしれない。しかしあのキラキラした笑顔からは本当の気持ちは読み取れなかった。とても強かった。私も弱音を吐いている場合ではない。彼らに負

けない、勝つくらい強い心と優しい心を持つことを決めた。

帰国して私はタイに行ってしまったてよかったのだろうかと考えたことが何回もあった。それはタイの文化、気候、食事、温かい人たち、幼い頃的环境を思い出してしまったからだ。何回も考えた結果、行ってよかったという答えが出た。私を変えてくれたからである。具体的な体験やこの経験をどう生かしたいかなど書くべき内容は他にもありました。しかし感情が羅列した感想文になってしまいました。これが私の正直な感想です。感情をそのまま書くことが一番伝わると思いました。

「タイでの経験をを通して」

駒込高校 一年 瀬戸菜々子
三日間過ごした施設では、子どもたちのまぶしいぐらいの真っ直ぐさを感じた。お父さんやお母さんが居なかったり、一緒にいる事が出来なかったり、様々な理由を抱えて生きている。しかし、そのことを感じさせないぐらいのとびきりの笑顔だった。タイに行く前、子どもたちに何かしてあげたいと思い、「子どもたちに何をしてあげられるだろう」ということを良く考えていた。

しかし、子どもたちに何かしてあげるというより、子どもたちから沢山の事を教わった。特に、強く夢を持つことの素晴らしさや、見返りを求めない優しさ、そして笑顔の素晴らしさを教わった。

タイの子どもたちと共に沢山の活動をしていく中で、手を引っ張って色んな所に連れて行ってくれたり、抱きついてくれて、バスケや卓球など一緒に遊んでくれて本当に嬉しかった。日本語の本をわざわざ借りてきてくれて勉強して話しかけてくれたりしたために心がとても温かくなった。きのこや、灯籠作りなどを行ったが、言葉は通じないのにそこにはいつもみんなの笑い声が溢れていた。それは、全員がみんな一緒に楽しもうという気持ちがあったからだろう。施設の人もとても親切にしてくれた。しかし、子どもたちから「お母さんといっしょにくらしていただけますか？」と質問された。そのとき私は「やっぱり、辛い思いを抱えて生きているのだなあ」と感じた。子どもたちがいつまでも真っ直ぐな笑顔で、夢を叶えてほしい。私はタイの子どもたちの笑顔がとても好きだ。

実際のバンコクのスラム街に行った

ときには、そこで暮らしている人たちの「その日、生きるの精一杯」という状態を目の当たりにした。お世辞にも綺麗と言える環境ではなかった。そこで暮らす人々は仕事を見つけないことさえ難しい。だが、彼らは家族や、大切な人のために日々働く事をやめない。労働環境は悪く、何十時間働いても生活は苦しい。しまいには、国から立ち退き勧告され、住む場所さえ失ってしまふこともある。スラム街が出来た悲しい要因や、実際の生活の様子を聞き、たくさんの感情が溢れてきた。現状への驚き、彼らに対しなにも対策しなかつた政府への怒り、彼らの思いを想像すると苦しく、辛かった。「何かしてあげられたら」と思っても、今の自分

に出来ることは、少なく無力さを感じた。しかし、ボランティア団体などはタイのこのような現状に手をさしのべている。手をさしのべている人たちがいるということを知り、すこしホッとした。手をさしのべてくれる人がいることで、この現状は少しずつでも良くなっていくだろう。もっとたくさんの人にタイのボランティアについて知ってもらいたい。今、私に出来ることはそのボランティア団体の活動を応援す

ることや、スラム街の人の幸せを願うことだと思う。少しでも、スラム街の人々の役にたきたいという気持ちは忘れない。どうかスラム街に住む人たちも、適切な労働環境のもので、温かな家の中で家族や大切な人と幸せになつてもらいたい。

この体験を通して沢山の人の支えて貰った。引率してくれたお坊さんをはじめ、みなさんには本当に感謝している。そして、タイのみなさんが幸せであることを願っている。

「タイ・スタディーツアー感想文」

駒込高校 一年 佐田絵理香

私にとって初めての海外。それが今回のタイで良かったと心の底から思う。濃厚で充実した六日間だったと言えるだろう。

私たちは「生き直しの学校」チュンポーン校で子どもたちと出会った。私があるところ、強く感じた事、それは主に三つある。

一つ目は子どもたちの優しさだ。その優しさというのは日本人が持つていないような優しさだった。日本人が優しくくないというわけではない。しかし、日本人は礼儀正しいが案外、人が冷た

かったりする。だが彼らの優しさは、その人の情熱や熱意から滲み出てくるようなものだった。坂を登る時に手を貸してくれたら、私がタイ語の本を持っていたら簡単に分かりやすく教えてくれたり、涙が出たらそっと拭いてくれたりと日本人が自然と出来ないような優しさを彼らは持っていた。その優しさは心地よく頼もしいものだった。

二つ目は子どもたちの積極性と行動力だ。とにかく子どもたちは積極的。出会って早々、みんなが話しかけてくれた。その時の彼らの目はとてもキラキラと輝いていた。言葉があまり分からなくても、お互い相手に伝えよう、伝えたいという思いから会話は自然と成り立っていた。気持ちを通じる、それだけで良かった。だから言葉の壁など気にならなかった。また小中学校を見学した時には少しだけ一緒に英語の授業を受けた。そこでも彼らは積極的だった。日本の学校との大きな違い、それは発言量だと思った。彼らは圧倒的に発言量が多い。手を挙げて先生に「私の事を指して」とみんながアピールしていた。日本の学校でこのような光景は考えられるだろうか。

三つ目は子どもたちの強さだ。彼ら

は出会った時から別れの時まで笑顔を見せ続けてくれた。でもその笑顔の裏に深刻な問題を抱えていると知ったのは、施設の方から話を聞いた時だ。「彼らは来たくてここに来たわけではない。両親がいなかったり、親が麻薬で服役中のため育ててくれる人がいなかったりそれぞれ問題を抱えてここにきている。あの笑顔の裏にはこのような問題があることを忘れないで」私はハッとされた。出会った子どもたちは皆、年齢が若いなりに自分自身を確立し、強く生きていたのだ。その時、私の悩みや不安はちっぽけなものに感じた。私も強く生きようと、逆に励まされたようだった。

同時にタイの貧困問題の原因も少し見えた気がする。それは教育と政府の対応だと思った。教育については小中学校を見学した時、生徒の数に対して先生の人数が少なく感じた。田舎だということもあるかもしれない。だがこのまま教師不足が深刻化すると子どもたちの勉強の場がなくなってしまう。教師に何か優遇を与えるなど工夫をしていかなければいけないと思う。また政府の対応も微妙だ。新しい事ばかり始め近代化を図っている。しかしそれ

が国民内の貧富の差を広げ、貧困を深刻化しているのだ。政府はスラム問題解決のためにはお金はさかないというお話を聞いた。新しいものにすぐに飛びつくのではなく、タイに根付いてしまった貧困問題を先に解決しなければいけないのではないだろうか。お金の使い道を政府は考えるべきだ。

貧困が原因で子どもたちの可能性が奪われてしまうのは悲しい。高校生の私に何か大きなことができるわけではないが、今回学んだ事を何らかの形でたくさんの人に伝えていきたい。

「タイ・スタディーツアーに参加して」

駒込高校 一年 松下由利ノ介

十一月十日タイ時刻四時半、私たちはバンコク国際空港に到着した。入国審査を終えると比叻山高校の先輩方と合流し国内線へ。タイも日本も同じ立憲君主制ではあるが、タイ国民にとつての国王、特に前国王の存在は、日本にとつての天皇のそれとは大きく異なることが一瞬で分かる。タイに入国してからまだ三十分も経っていなかったがすでに前国王ラーマ九世と現国王の肖像画をいくつも目にした。あとでタイ人の人に聞いたところ国王というの

は我々の心のよりどころだということ。この後も教室のカレンダー、看板、店先のポスターなどにも描かれており、今回の滞在でおそらく最も目にしたタイの人だろう。さて、六日間のスタディーツアー、タイの貧困について学ぶという貴重な体験をさせていただく以上、このように常に新しい目を持って物事を見ていこうと私は決心していた。そして体験した一瞬一瞬をカメラに収め、帰国後それを他の人と共有したいと思っている。また私は校長先生がおっしゃられていた「学ばせていただいている」という立場だという意識を常にもとて」という言葉を元に取り組んでいくことにした。

国内線で一時間半、スラタニ空港に到着した。日本の空とは全く違う。バスの車窓からはヤシの木と空一面に入道雲が広がっているのが見えた。現地の人やヤシの木から取れるパーム油で生計を立てている。昔はゴムの木を栽培していたそうだ。やがてそこにパーム油で大儲けした人が現れ、あつという間にみんなが栽培するようになった。そうすると供給量が上がって価格は暴落。現在一kgあたりたった十円である。これが農家の暮らしを一層貧しくさせた。

私はこの悪循環を聞いて胸が痛くなった。そして先進国こそこのような悪循環を断ち切れるアイデアを提供すべきなのにと一人もどかしい思いでいた。

バスに乗って一時間半後、十一時四十五分に私たちはついにもしびの館 チュンポーン校に到着した。私たちは昼食をいただいた後、現地の子たちが通っている学校を見学した。生徒一人一人が拳手をし自分の意見を述べている姿からは、学ぶということを楽しんでいるように見えた。これこそ私たちが忘れかけている学ぶことの本質なのだと思う。そして授業でポーツとしている場合ではないと気付かせてくれた。その後三日間子どもたちと様々な活動を行った。それらの一つ一つが私にとってかけがいのない思い出だ。特に孤児院の子たちとの体験を通して彼らの優しさ、思いやり、明るさ、そして素直さに感動させられた。灯籠の作り方を自分のは後回しにして教えてくれたり、出し物を披露してくれたりと私たちがむしろ元気をもらってしまった。ある子はラオス人とタイ人の親を持つち、二人の子である彼は国籍を持っていない。つまり誰もが受けられるはずの福祉、教育、医療などすべての公共

サービスを受けることができない。「このような行くあてのない子どもたちがここに来たわけではない」先生は私たちにそう話してくださった。一人一人が暗い過去を持っているのにもかかわらず、みんな笑顔で私たちに心を開いてくれた。私たちも彼らのように強く生きなくてはいけないと思われた。

最終日、私たちはバンコク市内のクロントイスラムを訪れた。孤児院の子のほとんどがこの地域で保護されたそうだった。私は六日間の中で一番のショックを受けた。家とはとても言えない簡素な住居、今まで嗅いだことのないような強いドブの匂い、べたついた空気、黒ずんだ水、ゴミの山。東京に住んでいたなら想像すらできない世界だった。私はカメラを向けるのを躊躇した。もし自分が撮られる側の立場だったらどんな思いだろう？撮られたくはない。「写真を通して貧困の現状を伝える」そう宣言して日本を出たのにもかかわらず私の心の中で葛藤が続いた。悩んだ末、住民を絶対に写さないよう気をつけた上で写真を撮った。特別な写真ゆえに三十六枚撮りのフィルムで一枚一枚心を込めてシャッターを切った。



バーンタップマイ小中学校を訪問

十一月十日

(比叡山高校二年 柳田龍海君の感想は次回の総本部だよりに掲載予定)

この暮らしを少しでも改善するため何か私たちにできることはないのか本当に考えさせられる。募金はもちろん重要な手段だが、そんな単純な問題ではないことがわかる。この経験によって、世界の現状を撮影するフォトグラファーやジャーナリストという仕事に対する難しさを少しは実感することができたと思う。



灯籠流し



灯籠作り



お菓子作り



堆肥作り

十一月十一日

十一月十二日



意見交換会



キノコ栽培



財団事務所での学習会

十一月十三日



チュンポー校での修了式



クロントイ地区の幼稚園を訪問



クロントイスラム地区の視察

第三十二回 全国一斉托鉢

平成二十九年十二月一日、第三十二回全国一斉托鉢が各地で実施された。十二月の「地球救援募金強化月間」中は各教区本部を中心に戸別托鉢や街頭托鉢が展開され、師走の恒例行事となっている。今回も多くの方々の協力により平成三十年二月二日現在で六十八会場の実施報告があった。

全国での募金総額は九百六十一万七千九百九十三円で、これらの浄財から地域社会福祉向上のために地元の社会福祉協議会やNHKの歳末たすけあい運動などに届けられたほか、一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」に五百五十二万七千六百六十二円が寄託された。

各地の様相

(平成三十年二月二日までに報告されているもの)

延暦寺一山

平成二十九年十二月一日、比叡山麓の大阪市坂本地区一帯で行われ、今回



で第三十二回目を迎えた全国一斉托鉢には、延暦寺一山住職や職員、天台宗務庁の役員、総勢約百名が参加した。

午前九時より、法螺貝の音を合図に生源寺を出発した一行は、天台座主森川宏映猊下を先頭に「造り道」を托鉢行脚。その後、六班に分かれて坂本界限の戸別托鉢を行い、多くの浄財が寄せられた。また、天台宗務庁の役員と延暦寺一山寺庭婦人が、JR比叡山坂本駅、JR堅田駅、JR大津京駅と京阪坂本駅にて街頭募金を実施した。なお、当日寄せられた浄財はNHK歳末たすけあい運動とNHK海外たすけあい運動に寄託された。

滋賀教区本部

十二月一日、蒲北部東南寺より安土町内を総勢五十二名が十二班に分かれ托鉢を実施。天候にも恵まれ、平等寺、西光寺、會勝寺、稱名寺、正禪寺の檀信徒の協力を得て、托鉢が行われた。地球救援事務局に二十八万円を寄託。

京都教区本部

十二月二日、京都市中京区四条河原町南東角及び南西角にて総勢二十三名が二班に分かれて街頭托鉢を実施。晴天の中、京都教区宗務所を午後一時に出発。青蓮院門跡にて法楽の後、午後二時より一時間浄財の募金を呼び掛けた。紅葉シーズンの休日という事もあり、多数の往来があったが、実際に足をとめて募金して頂ける方(特に若年層)は例年にも増して少なかったように感じる。勧募のスローガン、また実施場所等再考の必要がある。京都新聞に十八万五十七円、地球救援事務局に十八万五十七円を寄託。

近畿教区本部

十二月一日、大阪市南区(ドンキホーテ御堂筋店前、フルータワービル前、相互タクシー前)周辺にて総勢十

二名が三組に分かれ街頭募金を実施。読経しながら主旨を伝え募金を呼び掛けた。気づかぬふりをする方や怪訝な目で見



方たちも多く見られたが、合掌に応じて浄財を募金箱に入れてくださった方もおられ、喜びを感じることができた。インド・パンニャ・メッタ・サンガに六万七千七百七十九円、地球救済事務局に六万七千七百七十九円を寄託。

兵庫教区本部

・第一部では十二月一日、加古川市鶴林寺周辺にて総勢二十五名が托鉢行脚を実施。鶴林寺住職の事前告知があったため、地域の方々は大変協力的であった。地球救済事務局に十二万五千円を寄託。

・第二部では十二月二日、高藏寺・浄法寺各檀中地域周辺にて総勢三十九名が戸別托鉢を実施。当日は晴天に

恵まれ、寒いながらも托鉢を行うには良き日和となった。本年は、高藏寺・浄法寺各檀中地域を、



それぞれの寺院総代案内の下、魔事なく終えた。各檀家訪問時には、温かく迎えていただき快く協力いただいた。篠山市に十万円、加東市に二万円、三田市に二万円、地球救済事務局に五万五千七百七十四円を寄託。

・第三部では十二月一日、極楽寺檀信徒地域にて総勢六十五名が戸別托鉢を実施。当日は天気もよく



午前八時半より極楽寺本堂前にて結団式を行い、二十二名の住職、二十名の各寺理事、案内（世話人）のグループで各地区に分かれて檀信徒宅を戸別托鉢訪問した。各家の方が玄関を開け、住職方を迎えて読経。般若心経を一緒にお唱えされる方もおり、浄財を直接手渡ししてくださった。各地区の托鉢が終わり、各グループは本堂にて休憩の後自由解散にて終了。多可町社会福祉協議会に十四万二千元、地球救済事務局に十四万三千九百三十三円を寄託。

・第四部では十二月一日、姫路駅前から姫路城前までの間にて総勢十一名が托鉢行脚を実施。この日は、寒くなるとさ

れていたが風もななく日差しにあたると比較的暖かい日であった。その場でお経を唱えながら待つてい



でも集まらないように感じた。ティッシュを配って受け取っていただいた方の中には募金してくださる方もおられた。地球救済事務局に八万一千七百八十四円を寄託。

・第五部では十一月十一日、法雲寺周辺美方郡香美町村岡区内にて総勢十七名が戸別托鉢を実施。小雨の降る中ではあ



ったが、法雲寺の住職・副住職両師の行き届いた準備により、住職や寺族の方、檀信徒の皆で協力し合い円滑に進めることができた。地球救済事務局に五万五百円を寄託。

・第五部正福寺支部では十二月一日、新温泉町湯・歌長・細田周辺にて総勢九名が戸別托鉢を実施。雨の中、軒先で待つてくださる方や気づいて追いかけてくださった方など様々お

られ、毎年の托鉢に協力いただいた。新温泉町社会福祉協議会に九万千円、地球救済事務局に九万五千七百五十一円を寄託。

・第六部では十二月二日、丹波市春日町稲塚区内・大野区内安穩寺檀中、小多利区内桃源寺檀中にて総勢十九名が二班



に分かれ托鉢を実施。小さい集落での実施だったので、戸数が少なく高齢者世帯が目立った。第六部では毎年会場を寺院単位で持ち回りとしており、当地域は四巡目となる。好意的に接していただき、ありがたく浄財を接受できた。丹波市社会福祉協議会に三万九千二百五十円、地球救済事務局に四万二千四百四十七円を寄託。

岡山教区本部

・第一部では十一月二十二日、長楽寺での部会にて住職十七名から浄財を募った。地球救済事務局に二万三千円を寄託。

・第二部では托鉢行脚を実施していない。第二部災害基金に十一万円、地球救済事務局に十万六千八百八十八円を寄託。

・第四部では十一月二十四日、倉敷市玉島市街にて総勢四十九名が五グループに分かれて戸別托鉢を実施。少々寒いが好天に恵まれた。地球救済リーフレット及びポケットティッシュを配布しながら、般若心経一巻のお勤めにて浄財を募った。近年協力していただける檀信徒が世代交代せず、高齢化が進んでいることが気に掛かる。玉島社会福祉協議会に五万円、地球救済事務局に十二万五千七百五十三円を寄託。

・第五部では托鉢行脚を実施していない。山陽新聞社会福祉事業団歳末たすけあい義援金に三万円を寄託。

山陰教区本部

・第一部では十二月一日、JR鳥取駅前にて総勢十四名が数班に分かれて

街頭募金を実施。霧の中だったこともあり、人々も急ぎ早で困難を極めた。また、鳥取県条例により声掛けが行えず明年からの対策にせまられる。日本海新聞鳥取中部地震義援金に三万二千七百七十四円を寄託。

・第一部三佛寺支部では十二月六日、



協力をいただき行った。三朝町社会福祉協議会歳末たすけあい募金に四万八千円、地球救援事務局に五万二千三百円を寄託。

・第二部では

十二月一日、松江市北田町普門院周辺にて総勢八名が托鉢を実施。例

年JR松江駅周辺にて行っていたが、本年より宗教関係

の活動許可がおりず苦戦をしいられている。明年より対策の検討が必要である。山陰中央新報歳末たすけあい三万九千四百四十円、地球救援事務局に三万円を寄託。

四国教区本部

十二月一日、宇和島市商店街にて総勢五名が街頭托鉢を実施。市民の方はあまり立ち止まっていただけないため歩きながらの托鉢となる。約1kmの行程をゆつくり歩きながら道行く人に声



掛けを行なった。地球救援事務局に四万百円を寄託。

九州東教区本部

・第一教部では、部内各寺院より浄財を募った。地球救援事務局に三万円を寄託。

・第二教部では、部内各寺院より浄財を募った。地球救援事務局に四万五千円を寄託。

・第三教部では十二月一日、豊後高田市内にて総勢六名が二組に分かれて街頭托鉢を実施。豊後高田市交通安全



全協会に四万円、地球救済事務局に四万二千七百五十六円を寄託。

・第四教部

では十二月一日、大分市中心部トキハデパー



ト前にて総勢十一

名が街頭募金を実施。昨年

同様に許可を得て、デパート入り口付近にて

募金活動を行った。人通りが年々少なくなっているが、デパート客の出入りとバス停の客だけは協力してくれる。筋向かいの店舗が建て替えに入り完成が待たれる。毎年実施していることもあり、認知されている。地球救済事務局に三万三千四百五十七円を寄託。

・第五教部では、部内各寺院より浄財を募った。地球救済事務局に一万五千円を寄託。

・第六教部では、部内各寺院より浄財を募った。地球救済事務局に一万円

を寄託。

九州西教区本部

・筑前部では十一月二十九日、北九州市門司区東門司商店街にて総勢十九名が戸別托鉢を実施。朝からの雨も上がり、曇り空の中出発。三年前に托鉢を行った商店街の売店も、廃業した店舗が多く見受けられる中、商店主の皆からの温かい寄進をいただくことができた。地球救済事務局に四万三千二十一円を寄託。

・久留米部では十二月八日、久留米市街中心部の商店街にて総勢八名が戸別托鉢を実施。小雨が降る寒い中行った。商店街もシャッターが閉まっている所が多く、時代の流れを感じさせる。そ

れでも多くの方々に協力していただいた。災害が多い年であったことから、その復興に促して欲しいとの声もあ



った。地球救済事務局に四万三千二十一円を寄託。

・柳川部では十二月五日、柳川市内商店街にて総勢七名が戸別托鉢を実施。気温が下がり寒風吹き荒れる中行われた。地方都市における過疎化は進んでおり、空き店舗も目立つ様になっている。しかし、毎年実施しているため定着しており、この気象条件であっても温かく浄財を喜捨いただいた。地球救済事務局に二万九千二百九十二円を寄託。

・肥前東部と肥前西部は合同で十二月七日、佐賀市駅前通りにて総勢十六名が托鉢を実施。当日は気温が低く時折小雨が降る中、一件一件丁寧な読経を続

け、趣旨に賛同いただいた方々から浄財と労いの言葉を頂戴した。部内寺院の募金箱の浄財もあわ



せて持ち寄りられ、多くの救援協力金を集められた。地球救援事務局に四万二千五百三十八円を寄託。

・対馬部では十二月十二日、対馬市上対馬町比田勝商店街にて総勢十九名が托鉢を実施。今年一番の寒さとなり、絶好の托鉢日和であった。この地区での托鉢は三年ぶりだったが、総代の方々が先頭に立ち声掛けをしてください、快く喜捨いただいた。地球救援事務局に五万六千六百円を寄託。

三岐教区本部

十一月三十日、三重一部の朝田寺周辺にて総勢二十名が三班に分かれて戸別托鉢を実施。

玄関脇で般若心経を聞いておられたり、托鉢僧と記念写真を撮られたりと、好意的にお迎えいただいた。案内役の檀信徒



の皆さんも率先して旗を持って協力いただいた。地球救援事務局に十万三千五百円を寄託。

東海教区本部

・東海教区本部では十二月二十一日、覚王山日泰寺にて総勢九名が募金活動を実施。毎年十二月二十一日は縁日で年末の買い物かねたお参りが多い日である。師走にしては天気にも恵まれ募金活動にに応じていただけの方も多く、また毎年の行事になり小銭を袋等に貯めて届けていただけの方も増えてきた。啓発品を配りながら募金活動を実施していると、毎回募金にえられる人から励みの言葉をいただき、寒さに負けずに成し遂げた。今回は、四月に行った托鉢募金の寄託先と金額を募金箱に提示し、透明性・信頼性を表した。中日新聞に五万円、天台宗仏教青年連盟に十萬四千七百四十五円、地球救援事務局に五万円を寄託。

・第五部吉祥院支部では十二月一日、七日、知多市八幡周辺にて総勢十七名が寒行托鉢を実施。七日間、八幡地区にて伝教大師讃仰和讃を詠唱しながら行われた。今年で三十五年目

を迎える。知多市共同募金に三十万円、社会福祉基金に八万三千五百円、地球救援事務局に二十万円を寄託。



北陸教区本部

十一月二十六日、福井市東大味西蓮寺周辺にて総勢十九名が戸別托鉢を実施。この時期の北陸は雨や雪の日が多いが、

本年は天候に恵まれた。檀信徒の方々には一生懸命お世話いただき、厳かな雰囲気の中終え



ることができた。地球救済事務局に二十一万二千二百円を寄託。

信越教区本部

・伊那部では十二月一日、駒ヶ根市下平地区長春寺周辺にて総勢六名が戸別托鉢を実施。長春寺協力のもと、寺院周辺の檀徒並びに檀徒以外の各戸を訪問し、般若心経を誦読して各家の家内安穩、心願成就を祈願した。昨年同様に下平地区での托鉢は、初めての試みであったが在宅の方は皆温かく迎え入れてくださった。留守宅でも同じように誦読しチラシ、テキストシュを配布した。地球救済事務局に七万六千四百三十円を寄託。

・長野部では十二月二日、善光寺仁王門周辺にて総勢八名が街頭托鉢を実施。大きな災害に対しての募金が目的の托鉢にもかかわらず、快く応じてくださる方が多く嬉しく感じた。地球救済事務局に五万四円を寄託。

神奈川教区本部

十二月一日、J R川崎駅東口銀柳街周辺にて総勢三十七名が一組七〜八名の五組に分かれ、幟旗を掲示しチラシ、テキストシュを配布し街頭托鉢を実施。

天台宗を掲げて全国一斉托鉢を行っている旨を伝え、募金への協力を呼びかけた。通行の方々から多く浄財を頂戴し、また



教区内の各寺院がそれぞれ集めた募金も持参いただいた。教区仏青救済募金に十万円、地球救済事務局に十二万八千五十七円を寄託。

東京教区本部

・東京教区本部では十二月九日、聖観音宗浅草寺宝蔵門前にて総勢四十名が街頭托鉢を実施。外国人観光客が多かったが、趣旨を理解してもらい沢山の方に協力していただいた。托鉢啓発用品に外国の方に分かりやすい表記（英語、中国語等）があると、もつと多くの浄財が集まるのではないかと感じた。あしなが育英会に十万円、港区社会福祉協議会に三万六

千七百六円、地球救済事務局に八万円を寄託。

・東京教区仏教青年会では十二月五日、明治神宮外苑前イチョウ並木にて総勢十三名が二カ所に分かれ街頭托鉢を実施。仏教青年会の毎年恒例となっている青山での助け合い募金活動は、風が強く寒くはあったが、銀杏の葉が綺麗に色付き多くの方が行き交う中で実施できた。天台青年僧であることや、国内外の災害救済のために募金を行っている旨を声掛けしながら托鉢をした結果、多くの方の賛同を得て浄財をいただいた。宗務所がある土地で微力ながら一隅を照らす運動を広めることができたと思う。日本赤十字社に二万円、地球救済事務局に三万二千三十六円を寄託。

北総教区本部

十二月一日、成田市・千葉市周辺にて総勢二十三名が檀徒宅への戸別托鉢を実施。当時は寒風が吹く中、僧侶達が訪れると「寒いところご苦



労様です。役立てて下さい」と浄財を頂戴した。地球救援リーフレットとティッシュを渡して活動のアピールにもなったように感じる。地球救援事務局に二十九万三千二百円を寄託。

南総教区本部

十二月一日、いすみ市大原町商店街周辺にて僧侶八名、檀信徒有志六名の総勢十四名が托鉢行脚を実施。大原町商店街は、伝統行事の「はだか祭り」なども行われる歴史ある商店街だが、この地域は人口も少なくなり、現在は人通りも決して多いとは言えない。しかしながら、我々の到着を待っていてくださる方や、温かい言葉をかけてくださる方もおり、檀信徒と共にこの重要な場所で托鉢を行えたことは意義深いことだと感じる。人口の少ない分、当日の托鉢行脚の他、事前



に地域の各寺院において托鉢を展開し、商店街以外の地域からも浄財を募った。タイ・プラティープ財団に十万円、地球救援事務局に九万五千三百二十八円を寄託。

埼玉教区本部

十二月一日、川越駅並びにクレアモール周辺、熊谷駅周辺にて総勢二十六名が街頭托鉢を実施。教区内寺院の檀信徒の方など、天台



宗と聞いて寄付をしてくださる方が多いように感じた。また、他宗であっても仏教を信仰している方は寄付をしてくださった。全体を通して若い方の寄付は少なかつた。天台仏教青年連盟に二万七千五百二十四円、地球救援事務局に十六万七千六百七円を寄託。

群馬教区本部

・南前橋部では十二月二日、南前橋部女屋町萬福寺周辺にて総勢百十名が戸別托鉢を実施。群馬教区本部に十三万四千八百九十九円、地球救援事務局に四十万円を寄託。

・北前橋部では十二月四日、前橋市龍藏寺周辺にて総勢十四名が戸別托鉢を実施。上毛新聞社に十万円、群馬教区本部に十一万七千円、地球救援事務局に十一万七千円を寄託。

・西前橋部では十二月一日、西前橋部光巖寺周辺にて総勢三十六名が戸別托鉢を実施。上毛新聞社に八万八千三百円、総社町社会福祉協議会に三万円、仏教保護会に七万円、群馬教区本部に十万円、地球救援事務局に十万円を寄託。

・高崎部では十二月三日、高崎駅前、高崎市街地にて街頭托鉢と戸別托鉢を実施。群馬教区本部に三万円、地球救援事務局に三万円を寄託。

・富岡部では十二月二日に富岡市内、十二月九日に甘楽町内にて総勢二十六名が戸別托鉢を実施。社会福祉協議会に十八万七千八百八十九円、群馬教区本部に一万円、地球救援事務局に二万円を寄託。

- ・多野部では十月二十四日、多野部淨法寺で行われた研修会にて募金活動を実施。群馬教区本部に六万円、地球救援事務局に六万円を寄託。
- ・北群馬部では十二月二日、渋川市内にて総勢五十八名が街頭托鉢を実施。上毛新聞社に十万円、渋川市社会福祉協議会に七万円、群馬教区本部に五万円、地球救援事務局に五万六千三百三十九円を寄託。
- ・沼田部では十一月十三日、部会にて住職十一名から浄財を募った。群馬教区本部に二万円、地球救援事務局に一万円を寄託。
- ・桐生部では十二月三日、桐生市榮昌寺周辺にて総勢十名が戸別托鉢を実施。群馬教区本部に二万四千五百一十円、地球救援事務局に二万二千円を寄託。
- ・東前橋部では十一月二十四日、部内各寺院にて総勢十名が托鉢を実施。群馬教区本部に六万円、地球救援事務局に六万円を寄託。
- ・世良田部では十二月九日、部会にて部内住職から浄財を募った。群馬教区本部に一万円、地球救援事務局に二万円を寄託。
- ・下仁田部では十二月一日、下仁田町・

南牧村内にて総勢十二名が戸別托鉢を実施。下仁田町社会福祉協議会に八万三千三百九十二円、南牧村社会福祉協議会に六万九千七百七十八円、仏教保護会に二万円、群馬教区本部に一万五千元、地球救援事務局に一万五千元を寄託。

茨城教区本部

・茨城教区本部では十二月二日、第二部千光寺周辺にて総勢十五名が托鉢を実施。毎年行われている為、各家の方々に優しい言葉をかけていただいた。教区浄財積立に五万円、地球救援事務局に九万四千三百円を寄託。

・第二部では十二月二日、筑西市下館駅北口広場・かすみストア・北口南口商店街周辺にて総勢四名が街



頭・戸別托鉢を実施。昨年の月曜に実施した托鉢の反省を踏まえ、十二月第一土曜日に実施した。天候は穏やかであったが、教区托鉢と重なり少人数の参加であった。市街地の目ぬき通りに人影は無いものの、スーパーマーケット前での托鉢では、しようぐうさんに集まる多くの人から浄財を寄託いただいた。筑西市社会福祉協議会に十一万七千二百二十二円を寄託。

栃木教区本部

十二月一日、JR宇都宮駅西口駅前にて総勢十五名が戸別托鉢を実施。十二月に入り慌ただしさを増した夕刻の宇都宮駅、二時間に渡り、源田俊昭教区本部長、仏教青年会、内局等々、十五名の天台僧有志によって托鉢を行った。会社帰りのサラリーマンや学生、主婦の方々より多くの善意の募金をいただいた。平成二十九年は、宇都宮で計四回の募金活動を行ったが、市民の温かい思いやりに感謝。九州西教区に二万六千九百四十四円を寄託。

福島教区本部

第四部龍興寺支部では十一月三十日、

会津美里町
高田町内に
て詠讚会、
伝道師会の
会員など総
勢十八名が
第三十回
「歳末助け
合い詠讚托
鉢」として
街頭托鉢を
実施。第三



十回「歳末助け合い詠讚托鉢」は、天台宗全国一斉托鉢と歳末たすけあい運動に協賛し、昭和六十三年より毎年行っており、地元に着している。龍興寺福聚教会詠讚会員並びに伝道師会員は、それぞれ浄財を出し合い一隅を照らすのぼり旗を先頭に鈴を振り「伝教大師鑽仰のご和讃」を詠唱し、町内各戸を巡り募金を呼び掛け、会員一同「忘己利他・一隅を照らす運動」実践の一環として行っている。福島民報社教育福祉事業団東日本大震災復興義援金に四万六千三百八十四円、地球救援事務局に四万六千三百八十五円を寄託。

陸奥教区本部

十一月十二日、第二部観福寺にて総勢三十九名が戸別托鉢を実施。平成二十七年にも協力いただいた第二部観福寺において総代九名の案内により三十名の僧侶が一斉托鉢を行った。観福寺檀信徒の方々には前回同様、托鉢僧の読経に手を合わせ「国内外の皆様のお役に立てて下さい」と募金協力いただいた。また、飲食物等の差し入れをいただくなど、温かく迎え入れて下さった。忙しい中案内をいただいた総代の方々、協力

力をお願い
いただいた檀
信徒の方々に心
から感謝
している。
地球救援
事務局に
十五万二
千三百三
十八円を
寄託。



山形教区本部

十二月一日、山形市内慈光明院・七

日町・十日町
大通り周辺に
て総勢五十九
名が街頭托鉢
を実施。当日
朝から小雪の
ちらつく中、
僧侶と立正佼
成会有志一同
が慈光明院を
出発し、山形
市で古くから

の商店街通りで各々の店舗を訪ねて托鉢を行った。東北電力では従業員の方々から集めたたくさん募金袋から鉄鉢にかけていただいたり、個人商店の店主さんのし袋で渡してくれたり、わざわざ外に出て托鉢行列の最後まで見送ってもらったりと、金銭だけでなく暖かな心遣いも頂戴した行乞だった。山形放送愛の事業団に十六万八千七百十七円、地球救援事務局に十万円を寄託。



平成二十九年支部活動事業認定支部

一隅を照らす運動総本部では、平成十九年度より宗祖伝教大師のお言葉「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」のご精神を實踐する支部を奨励し、一隅を照らす運動の敷衍並びに広く地域社会に貢献しようとする事業に対して助成を行っております。平成二十九年年度の認定支部は次のとおり二十八支部。(申請時の内容を掲載)

滋賀教区本部

稱名寺支部 (武内昭雄支部長)

- 事業名…社会貢献活動
- 活動年数…十七年
- 開催場所…滋賀県近江八幡市安土町
- 概 要…市民の健康の増進を図り、地域住民の交流の場である安土文芸の郷あど木つざランド内に、稱名寺支部と近江八幡市緑の少年団と協同して、桜の植樹を行っている。

教林坊支部 (廣部光信支部長)

- 事業名…教林坊春秋茶会

- 活動年数…十四年

● 開催場所…滋賀県近江八幡市安土町
● 概 要…年二回の茶会を毎回百名の参加を得て開催、伝統文化に親しみ、一期一会を楽しんでいただいている。待合いの場所に本堂を利用し、待ち時間に法話を行っている。

松尾寺支部 (近藤澄人支部長)

- 事業名…松尾寺山の里山保全・整備活用事業
- 活動年数…二十一年
- 開催場所…滋賀県米原市
- 概 要…旧松尾寺本堂跡を含む松尾寺山一帯の管理整備を行っている。「山道を安全に、人が入りやすい山へ」を目標に、土砂崩れ防止、倒木の撤去伐採、林道の整備、清掃活動、ハイキングや登山を開催するなどの活動に取り組んでいる。

兵庫教区本部

長光寺支部 (雲井明善支部長)

- 事業名…地域高齢者援助友愛活動
- 活動年数…二十六年
- 開催場所…兵庫県明石市大久保町

● 概 要…毎月行事を開催し、会員間の交流をはかり、様々な活動に取り組んでいる。他にも要請があれば生活支援・友愛訪問を行い、小学生に昔の遊びを教えるなどの協力をしている。

和田寺支部 (武内普照支部長)

- 事業名…地藏盆まつり
- 活動年数…四十年
- 開催場所…兵庫県篠山市今田町
- 概 要…参加者一同でのおつとめからはじまり、輪になつての盆踊り、ゲーム、地域の方のパフォーマンス等を観覧、子どもたちが出演するむかしばなし音楽劇の上演を行っている。



常行院支部 (岡山亮徹支部長)

- 事業名…山下城跡周辺保存会
- 活動年数…七年
- 開催場所…兵庫県加西市山下町

●概 要…城山の整理・保全等の環境整備や植栽、竹林の伐採を行っている。八月末頃には小学生を対象にした「おとまり会」を本堂で行い、坐禅や灯ろうの制作、花火大会を行っている。

彌勒寺支部（草別善哉支部長）

- 事業名…ほていまつり
- 活動年数…二十二年
- 開催場所…兵庫県姫路市夢前町
- 概 要…本堂及び本尊の公開、寺宝展、書院庭園の公開、フリーマーケット、福餅撒き、ビンゴ大会、ボランティアグループによる紙芝居、モンキーショーを予定している。昨年に引き続き近隣の老人ホームの方々を招待する予定である。この事業を通じて文化芸術の振興及び地域の活性化、教育、ふれあい活動等に効果があると思われる。

白毫寺支部（荒樋勝善支部長）

- 事業名…自然環境保全及び交流事業
- 活動年数…二十七年

- 開催場所…兵庫県丹波市市島町
- 概 要…寺院及び周辺に花木等を育て環境保全に資するとともに、イベント等を通じて交流事業を行い地域の活性化に貢献することを目的としている。「白毫寺九尺ふじまつり」の実施や「もみじめぐり事業」への協賛などを実施している。

岡山教区本部

千手寺支部（青野高陽支部長）

- 事業名…町内に花を植え、町を美しくする活動
- 活動年数…三年
- 開催場所…岡山県久米郡美咲町
- 概 要…花の苗をプランタに植え各家屋の前に置き、町全体を花で飾ろうという計画。住民が互いに水やり等の管理をして町全体を明るくすることを目的としている。



山陰教区本部

彌勒寺支部（柴山宣慶支部長）

- 事業名…彌勒寺一隅会
- 活動年数…四十年
- 開催場所…鳥取県気高郡青谷町
- 概 要…檀信徒を中心に境内地、地域の清掃・整備活動を年間通じて行っている。年一回比叡山や他寺院への参拝、毎年二月には「彌勒寺一隅大会」を実施し、御詠歌の奉納、檀信徒の発表会、講師を招いての講演を行っている。



興隆寺支部（市原修俊支部長）

- 事業名…山寺コンサート
- 活動年数…八年
- 開催場所…山口県山口市
- 概 要…江戸時代に行われていた「二月会」を子どもからお年寄りまでが親しめる現代版の催しとして再興し、実施している。往時の行事を偲びながら、現代風に親しまれるも

のを取り入れ、地域住民に親しまれ、かつ臨まれる内容として永続させるような活動を目標として取り組んでいる。

四国教区本部

妙法寺支部（大岡真祥支部長）

●事業名…丸亀ジャズストリート

●活動年数…四年

●開催場所…香川県丸亀市富屋町

●概 要…音楽文化の振興と丸亀市

中心市街地の活性化をはかるイベントとして開催されている。香川県内ミュージシャンバンドが出演し、コンサートを開催。各会場は無償提供で実施されている。



九州東教区本部

眞光寺支部（糸永崇幸支部長）

●事業名…公開文化講座

●活動年数…十六年

●開催場所…大分県大分市

●概 要…檀信

徒の中で多方面にわたって活動をしている人を支援し、その活動を広く知らせることによってその輪を広げる事を目的としている。一隅を照らす輪が広がることを願ってこの行事を大切に育てている。



東海教区本部

高田寺支部（柴田真成支部長）

●事業名…高田寺本尊薬師如来大縁

日奉納わんぱく子供相撲大会

●活動年数…三十七年

●開催場所…愛知県北名古屋

●概 要…本尊薬師如来大縁日にあ

たり、子供相撲大会を一人でも多くの方がご縁を結んでいただけばという願いで毎年十一月第二日曜に開催している。年中園児から小学六年生までの男女の参加があり大いに盛り上がっている。

眞福寺支部（澳葉全教支部長）

●事業名…寺子屋

●活動年数…二年

●開催場所…愛知県岡崎市眞福寺町

●概 要…はじめに簡単なおつとめと短い法話、食堂にて勉強、その後かき氷や流しそうめんを楽しむ。地域のコミユニティという場所になるべく続けている。



瀧山寺支部（山田亮盛支部長）

●事業名…瀧山寺節句の会

●活動年数…四年

●開催場所…愛知県岡崎市滝町

●概 要…古来より伝わる節句文化の伝承と新たな節句の創造を通して地域の方々と交流を図ることを目的に実施している。アート、音楽、和の文化の鑑賞・体験と地元食材を使った食事を提供し、季節の移ろいを体感いただいている。

信越教区本部

醫王院支部（矢崎長勉支部長）

●事業名：醫王院ジャズコンサート・境内ライトアップ

●活動年数：初回

●開催場所：長野県南佐久郡南牧村

●概 要：若者世代に足を運んでもらい地域活性として、本堂においてジャズコンサートをを行っている。また境内をライトアップし、より若者が訪れやすいように実施している。



正教院不動教会支部

（山崎晃圓支部長）

●事業名：池

ヶ原老松会

●活動年数：三

十五年

●開催場所：新

潟県小千谷市

●概 要：池

ヶ原神社の清



掃や、池ヶ原公会堂の広場の雑草駆除のために除草剤の散布、地域の老人と小学生の世代間交流会、町内会主催の祭に参加協力等を行っている。

神奈川教区本部

東圓寺支部（鷹野慈誠支部長）

●事業名：世界遺産忍野八海周辺清掃活動

●活動年数：十年

●開催場所：山梨県南都留郡忍野村

●概 要：富士山世界文化遺産の構成遺産として忍野八海が加えられ、この世界の宝を後世に伝えるべく、清掃活動を行っている。東圓寺一隅会の役員を中心に活動をしている。

東京教区本部

西光寺支部（京戸慈仁支部長）

●事業名：四つ木一丁目西光寺こども食堂

●活動年数：初回

●開催場所：東京都葛飾区

●概 要：「子どもたちの貧困」に対する活動として、地域の町会と連絡を取り合いながら、子どもたちの

明るく元気なコミュニティを応援し、食事提供を通して、経済的困窮および、心理的困窮を支援している。



南総教区本部

萬福寺支部（奈良康信支部長）

●事業名：高齢者サロン活動

●活動年数：十二年

●開催場所：千葉県鴨川市

●概 要：地域で生活する高齢者ができる限り要支援、要介護状態になるのを防ぐために、地域住民や関係機関の協力を得て軽度な運動や、歌やゲームでの脳トレーニング、集まるための食事の提供などの活動をしている。

群馬教区本部

萬福寺支部（守山俊尚支部長）

●事業名：寺遊会

●活動年数：四年

●開催場所…群馬県前橋市女屋町
 ●概 要…一人暮らしの家庭が増え、そういった方々に声をかけて実施している。毎月趣向を凝らして、手芸や食事会、軽い体操や簡単なゲームなどのイベントを実施している。なごやかな雰囲気作り、解放感に役立っている。

常行院支部（竹村彰人支部長）

●事業名…里山整備環境保全
 ●活動年数…十一年
 ●開催場所…群馬県高崎市吉井町
 ●概 要…寺院前の荒れた里山の竹林を伐採、草を刈り整備し、そこに桜の苗木を植えた。まだ竹が茂り放置された山があり、同じく桜を植える計画をしている。継続的に活動していくことが里山の整備、環境保全になり地域に貢献できると考えている。

正法院支部（藤井祐心支部長）

●事業名…正法院杯
 ●活動年数…五十年
 ●開催場所…群馬県前橋市富田町

●概 要…境内・神社などの清掃活動、小中学生・保護者を中心に坐禅会、正法院杯（ゲートボール、スマイルポウリングの大会）等を開催している。

栃木教区本部

台元寺支部（井上純道支部長）

●事業名…キャンドルヨガと写経・座禅会
 ●活動年数…二年
 ●開催場所…栃木県佐野市犬伏上町
 ●概 要…広く一般の方を中心に参加者を募り、キャンドルの明かりの中でのヨガ、その後には、法話、坐禅、写経を行っている。



福島教区本部

観音寺支部（中村久生支部長）

●事業名…如意輪観音並びに百観音

祭

●活動年数…二十七年

●開催場所…福島県二本松市五月町

●概 要…支部で行っている観音祭に向けて参道や寺の環境整備の他、寺に通じる市道の草刈り、ゴミ拾い、また定期的に地域防火水槽の周辺・空き家まわりの草刈りなど地域の美化活動を行っている。



安楽律法流本部

宗休寺支部（佐藤舜海支部長）

●事業名…関善光寺ふれあいプロジェクト
 ●活動年数…七年
 ●開催場所…岐阜県関市西日吉町
 ●概 要…寺院を地域社会の新しい「対話」と「交流」



の場とする様々な事業を展開し、寺院を核に新しい地域コミュニティを作ることを目的に活動している。

玄清法流本部

成就院支部（梶谷隆幸支部長）

（玄清法流本寺）

- 事業名…国登録有形文化財箱嶋家住宅和の文化シリーズ荒神祭
- 活動年数…四年

- 開催場所…福岡県福岡市南区

● 概要 要…琵琶演奏による般若心経、観音経を誦し、今年には自我偈を加え荒神様への祈りとともに、供養の側面も加えることを考えている。また、僧侶による法話もあわせて行い、琵琶の歴史、文化、宗教、未来について語っていく予定である。



一隅を照らす運動推進大会

○滋賀大会

滋賀教区本部（山岡智恢教区本部長）では、平成二十九年十月二十九日に長浜市の浅井文化ホールを会場に、第二十一回「一隅を照らす運動」滋賀教区本部推進大会を開催し、約三百四十名の参加者が集まった。

はじめに山岡教区本部長導師のもと相応和尚一千百年御遠忌滋賀教区法要が厳修された。つぎに山岡教区本部長からの挨拶があり、続いて森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より支部活動事業認定証が教区内三支部に、山岡教区本部長より支部活動助成金滋賀教区認定証が愛犬部檀信徒会に授与された。



また、実践者表彰があわせて行われ、山岡教区本部長より教区本部長賞が二名の方へ授与された。その後の来賓祝辞では森定総本部長より、二年後に迎える「一隅を照らす運動」発足五十周年への心意気と企画、若年層への想い、仏教徒としての使命と心のあり方・行動、完成したばかりの「しようぐうさん体操」について述べられた。

休憩をはさみ、延暦寺一山長壽院住職藤波源信北嶺大行満大阿闍梨より

「伝教大師の一隅を照らす精神について」と題した講演が行われた。回峰行の祖である建立大師相応和尚について、自身の千日回峰行での経験やその時に感じたことを交えた話に参加者一同は興味深そうに聞き入っていた。続いて記念公演として、浄土真宗本願寺派西来寺住職でもありオペラ歌手でもある花月真師によるオペラ公演「念仏コンサート」、支援が必要な子どもたちが中心となって活動している和太鼓チーム「湖星紅」による和太鼓公演がそれぞれ披露され、会場からは大きな拍手が贈られていた。

最後の閉会式では、滋賀教区檀信徒会会長より森定総本部長へ浄財の寄託が行われ大会は閉会となった。

○近畿大会

近畿教区本部(兼平明観教区本部長)では、平成二十九年十一月二十三日に高槻市の神峯山寺を会場に、神峯山寺秋祭一隅を照らす大会を開催し、神峯山寺檀信徒の方々を中心に紅葉狩りに来られた一般の方々も交え、約二百名の参加者が集まった。

大会では、インド禅定林住職のサンガラトナ・法天・マナケ師を講師に迎

え「慈悲の光をインドの大地から」と題して講演が行われた。講演の中でサンガ師は、インド仏教の現状、カースト制度などについて話され、普段はなかなか聞くことができなインドの現状に参加者は熱心に耳を傾けていた。

○茨城大会

茨城教区本部(中村純亮教区本部長)では、平成二十九年十一月二十八日に水戸市の茨城県民文化センターを会場に、第二十回天台宗一隅を照らす運動茨城大会を開催し、約一千三百名の参加者が集まった。

大会のはじめに、茨城教区議会議長の小川晃照師より開式の辞が述べられた。開会の



式典では、岡山教区本山寺法嗣泉智仁師による復興祈願奉納太鼓、中村教区本部長導師のもと教区各部の代表と教区仏教青



年会の出仕による法楽が執り行われた。つぎに世界口笛コンテストジュニア部門の優勝経験がある加藤万里奈氏による口笛演奏があった。続いて、中村教区本部長より挨拶、森定慈仁一隅を照らす運動総本部長、小堀光實延暦寺執行、阿純孝天台宗宗機顧問より祝辞が述べられた。式典の最後には、一隅を照らす運動実践者への表彰式が執り行われ、総本部長賞並びに教区本部長賞

がそれぞれ授与された。

休憩をはさみ、延暦寺一山円竜院住職宮本祖豊師より「比叡山の修行と伝教大師の御心」と題し、講演が行われた。千日回峰行について、自身が経験された、十二年籠山行について話され、その貴重な話に参加者一同は、驚きながらも興味深そうに聞き入っていた。

最後に、茨城教区主事会長の服部光純師より閉会の辞があり大会は幕を閉じた。

一隅を照らす運動ニュース

◎公開講座を開催

一隅を照らす運動総本部では平成二十九年十月三十日、天台宗務庁大会議室を会場に第十七回一隅を照らす運動公開講座を開催した。広く一般の方々に参加を呼びかけ、約三百名の参加者が集まった。

今回は、司会進行を一隅を照らす運動広報大使の露の団姫師が務めた。講師には、京都音羽山清水寺貫主の森清範師を迎え「梵心」と題して講演が行われた。

講演では、清水寺の一千二百年の歴史に触れ、『枕草子』などの古典文学



を引用しつつ「梵」の字の持つ意味やエピソードについて語られた。また、例年同寺で発表される日本漢字能力検定協会の「今年の漢字」にまつわる裏話も話された。聴衆は、森貫主の柔らかい語り口と優しい表情、普段では聞くことのできない内容に聞き入っていた。

当日会場では、参加された方々に地球救援募金の協力が呼びかけられており、多くの浄財が寄せられた。

◎比叡山中学校が募金を寄託

平成二十九年十一月七日、比叡山中学校ボランティア委員会の代表が来庁し、地球救援協力金として一万三千百六十円を森定慈仁一隅を照らす運動総本部長に寄託した。

十月三日・四日に同校の文化祭でボランティア委員会はバザーを開催し、その収益を例年総本部へ寄託している。バザーでは、同校の生徒が持ち寄った品物を販売しており、森定総本部長は「被災された方々のために、活用させていただきます」と寄託への謝辞を述べられた。



同校のボランティア委員会はその他にも、募金活動や福祉施設への雑巾の贈呈、坂本周辺の清掃活動など様々な活動に取り組んでいる。

◎NHKに浄財を寄託

平成二十九年十二月二十日、「NHK歳末たすけあい」及び「NHK海外たすけあい」に浄財が寄託された。

寄託式には、NHK大津放送局から丘信行局長が来庁され、杜多道雄一隅を照らす運動理事長、小堀光實同運動副理事長から目録が手渡された。歳末



たすけあいには、十二月一日に比叡山麓坂本地区で行われた「天台宗全国一斉托鉢」にて寄せられた浄財五十二万一千八百七十五円が、海外たすけあいには、地球救援事務局から五十万円がそれぞれ寄託された。

また、寄託式にあわせて、比叡山幼稚園から園児三名と保護者三名が来庁し、秋に行われたバザーの収益金の一部を丘局長に寄託した。

「NHK歳末たすけあい」「NHK海外たすけあい」は、国内外の支援が重要な方々のために役立てられる。

◎比叡山高校宗内生が托鉢浄財を寄託

平成二十九年十二月二十一日、比叡山高校の宗内生二名（高倉悠聖君二年生、仲田昌平君三年生）と宗内生が寮生活を送る山家寮の長山弘範寮長が来庁し、平成二十九



年十二月十日に行われた「寒行托鉢」で集まった浄財九万五千一百円を地球救援募金として、一隅を照らす運動総本部に寄託した。

この托鉢は、宗内生が実践仏教の一環として、大津市仰木地区において毎年行っているもので、黒素絹に手甲、脚絆、網代笠姿に装束を整え、法螺貝を吹きながら家々を行脚した。

◎三千院門跡が浄財を寄託

平成三十年一月十一日、三千院門跡の穴穂行仁執事が天台宗務庁に来庁し、一隅を照らす運動総本部へ六十二万七千七百八十七円の浄財を寄託された。

この浄財は、京都市左京区大原の三千院一帯で、平成二十九年十二月二十三日に実施された歳末の恒例行



事である「托鉢寒行」で集まった浄財で、地球救済事務局の様々な救援活動に役立てられる。

◎観山学院が托鉢浄財を寄託

平成三十年一月二十九日、観山学院生四名（瀨岡克成さん総合学科三年、室生幸樹さん総合学科一年、犬塚喜貴さん総合学科三年、田口暁敬さん総合学科三年）が来庁し、平成三十年一月



二十三日に行った托鉢で集まった浄財を一隅を照らす運動総本部に寄託した。この托鉢は、観山学院生で組織された学生会の「玉泉会」が実践仏教の一環で「観山学院寒行托鉢」として大津市園城寺町の園城寺（三井寺）門前から浜大津周辺にかけて行われている。今回は、学生と職員合わせて二十五名が戸別托鉢を行い、八万九千四百二十円の浄財が寄せられた。

◎「一隅を照らす運動」理事会を開催

平成三十年一月三十一日、天台宗務庁（滋賀県大津市）において平成二十九年第二回「一隅を照らす運動」理事会が開催された。本理事会において、平成二十九年一隅を照らす運動の補正予算、平成三十年度の事業計画・各会計の予算、平成三十一年に迎える「一隅を照らす運動」発足五十周年記念式典及び事業計画・特別会計の予算等が審議・承認された。

また、今回の理事会において顧問・役員の改選があり、それぞれ承認・報告された。

【顧問】

堀澤 祖門師 京都教区 三千院…再任
西郊 良光師 神奈川教区 圓満寺…再任

阿 純孝師 茨城教区 千妙寺…再任
木ノ下 寂俊師 京都教区 方廣寺…新任

【副理事長】
小堀 光實師 延暦寺一山 寂光院…再任

【理事】
獅子王 圓明師 延暦寺一山 壽量院…再任
小鴨 覚俊師 延暦寺一山 惠光院…再任

【監事】
島津 仁道師 山形教区 金壽院…新任
高岡 保博師 近畿教区 松尾寺…再任

